
岐阜県立高等学校の活性化に関する検討まとめ

<平成28年度>

平成29年 3月

岐阜県教育委員会

目 次

1	検討まとめについて.....	1
2	平成 28 年度の取組結果.....	2
	（1）小規模化の進行が急な 10 校の取組と活性化の基本的方向性.....	2
	（2）県立高校活性化のグランドデザイン.....	9
3	来年度以降の取組内容.....	10
	（1）地域連携による活力ある高校づくり.....	10
	（2）県立高校における進学指導体制の充実.....	10
	（3）スーパーグローバルハイスクールの拡充.....	11
4	来年度以降の検討課題.....	12
	（1）今後の急激な生徒減少期を見据えた学校規模（入学定員）.....	12
	（2）高校の特性に応じた活性化策.....	13
	（3）通学区域.....	13
	（4）国際バカロレア（I B）.....	14
	（5）併設型中高一貫教育校.....	14
	（6）外国人生徒への支援.....	14
	（7）「新子どもかがやきプラン」との関係について.....	14
	（8）市町村からの提案に対する対応.....	15
5	今後の予定について.....	16
	資料編.....	17

1 検討まとめについて

- 本県の教育振興基本計画である「第2次岐阜県教育ビジョン」（平成26年3月策定）の中で、特に個別・重点的に取り組むべき重点政策の1つである「中長期的な将来を見据えた高等学校の改革」について審議するため、平成26年4月に岐阜県立高等学校活性化計画策定委員会が設置された。

策定委員会では2年間、計16回にわたる審議の他、学区別の意見交換会や学校訪問、先進校視察等を行い、平成28年3月29日に「審議まとめ」を取りまとめ、県教育長に提出した。この「審議まとめ」では、「県内の各地域（学区）において、高校の特性や学科配置のバランス等を考慮した教育環境を整備し、魅力ある高校づくりを推進する」ことを基本理念としている。

- 策定委員会からの「審議まとめ」を受け、県教育委員会では、地区や学区ごとに計15回にわたる意見交換会¹（7月、12月）や、県教育委員による高校訪問²（9月～11月）、県立高校の魅力づくりに関するアンケート³（10月）などを通して、保護者を含む学校関係者や市町村関係者、県内の大学や企業関係者等からの意見聴取等に努め、県立高校の活性化に関して、具体的な検討を進めてきた。

- こうした検討を踏まえ、県教育委員会としては、学科の種類や卒業後の進路状況、学ぶ生徒の状況等を「高校の特性」と捉え、今後の急激な生徒減少期において、教育水準の確保と教育機会の保障をしていくためには、全ての県立高校で、それぞれの特性に応じた活性化を図っていく必要があると考える。

- この検討まとめは、県立高校の活性化に関する平成28年度中の取組結果と、来年度以降の取組内容及び検討課題をまとめたものである。

¹ 資料編：20頁～26頁 参考資料2、3「意見交換会意見概要」参照

² 資料編：18頁～19頁 参考資料1「検討まとめの検討経過」参照

³ 資料編：28頁～37頁 参考資料5「県立高校の魅力づくりに関するアンケート調査結果」参照

2 平成 28 年度の取組結果

(1) 小規模化の進行が急な10校の取組と活性化の基本的方向性

○ 小規模化の進行が急な10校（グループ1）については、各高校で、学校関係者や市町関係者、地域の産業界代表等により構成される協議会を組織し、地域と一体となり単独校としての活性化策を検討、実施しているところである。

一方、策定委員会による「審議まとめ」では、再編統合に関する一定の基準を設けた上で、その基準を満たさなかった場合の具体的な再編統合の方法を事前に示し、評価する必要性についても言及されている。

しかしながら、今年度実施した意見聴取の内容や総合教育会議等における議論を総合すると、現段階においては、入学者数等といった一律の評価により再編統合の必要性を検討するのではなく、高校の特性や地域の実情に応じた単独校としての活性化策を徹底的に議論し、実施していくことが必要であるとする。

○ 県教育委員会では、グループ1の10校における特色ある取組を紹介するパンフレットを作成し、当該校が所在する学区内全ての公立中学校3年生に配布することで、各校の魅力を発信した。また、今年度の各校における協議会での検討状況等を踏まえ、現時点での活性化の基本的方向性を次のように整理した。

不破高校（第1次選拔出願者数[変更後]／入学定員 H28：89／120 → H29：120／120）

＜今年度の主な取組＞

- ・ コミュニケーション能力育成のために演劇ワークショップを実施
- ・ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境を提供
- ・ 垂井町第6次総合計画（H30～H39）作成のためにワークショップを実施

＜協議会における主な意見・提案＞

- ・ 多様な生徒にきめ細かに対応する高校としての在り方を検討してはどうか
- ・ 企業での実習を高校の単位として認めるデュアルシステムを導入してはどうか
- ・ 生徒のボランティア活動をより一層発展させ、垂井町や関ヶ原町の歴史遺産等について、外国人向けに観光ガイドをするような取組を検討してはどうか

＜現時点での活性化の基本的方向性＞

- ◆ 単位制の特徴を生かし、多様な生徒の幅広い学習ニーズや学習スタイル（例：3年での卒業に限らない）に、一層対応できる高校
- ◆ 様々な教育活動を通して、社会性や確かな自信を身に付けることができる高校

郡上北高校（第1次選拔出願者数[変更後]／入学定員 H28:90／120 → H29:96／120）

＜今年度の主な取組＞

- ・ 道の駅等のオリジナルメニューとして鮎菓子やカレーを企画・提案
- ・ 地域の企業人による授業を実施
- ・ 生徒による連携中学校の授業支援、吹奏楽中高合同演奏会の開催

＜協議会における主な意見・提案＞

- ・ 単位制普通科への改編という方向性が見えた。創立70周年に向けて、地域のバックアップ体制をより一層強化したい
- ・ 小・中・高と段階を踏んで、郡上を大切に活動に取り組みたい
- ・ 相撲部等のスポーツ面での強化を図ってはどうか

＜現時点での活性化の基本的方向性＞

- ◆ 国公立大学進学希望者から就職希望者まで、地元の幅広い層の生徒を受け入れ、その多様な学習ニーズや進路希望に一層きめ細かに対応できる高校
- ◆ 郡上高校を含めた郡上市内の高校の在り方を検討

八百津高校（第1次選拔出願者数[変更後]／入学定員 H28:109／120 → H29:128／120）

＜今年度の主な取組＞

- ・ 本年度からデュアルシステムを導入、八百津町内の企業や事業所で実習
- ・ 八百津町の職員を講師とするワークショップを実施
- ・ 町内の小中高生で一斉にクリーン大作戦を実施

<協議会における主な意見・提案>

- ・ デュアルシステムについて、協力企業の一層の拡大に取り組むべき
- ・ デュアルシステムの魅力を中学生やその保護者に積極的に広報すべき
- ・ 長期休業中も、土曜学習会リトルティーチャー（高校生が小学生の学習をサポート）を実施してはどうか

<現時点での活性化の基本的方向性>

- ◆ 国公立大学進学希望者から就職希望者まで、地元の幅広い層の生徒を受け入れ、その多様な学習ニーズや進路希望に一層きめ細かに対応できる高校
- ◆ デュアルシステムの取組を充実・発展

東濃高校（第1次選抜出願者数[変更後]／入学定員 H28:121／120 → H29:123／120）

<今年度の主な取組>

- ・ コミュニケーション能力育成のために演劇ワークショップを実施
- ・ 「キャリア教育プログラム」（地域企業等からの地域活性化につながる提案に対する課題解決型学習）を実施
- ・ 御嵩町役場で、ウエイトリフティング部やロボコン部の実演披露を実施

<協議会における主な意見・提案>

- ・ 多様な生徒に対応するため、総合学科へ改編してはどうか
- ・ 演劇表現を学習できる学校設定科目を開設してはどうか
- ・ 外国人生徒、ロボコン、インクルーシブ教育、御嵩町との連携等、東濃高校の魅力を強化し、東濃高校のブランド力を高めるべきではないか
- ・ 町の事業として、生徒が防災士の資格取得に取り組むことを計画している

<現時点での活性化の基本的方向性>

- ◆ 外国人生徒も含めた多様な生徒の学習ニーズや進路希望に一層対応できる高校
- ◆ 様々な教育活動を通して、社会性や確かな自信を身に付けることができる高校

瑞浪高校（第1次選拔出願者数[変更後]／入学定員 H28:125／160 → H29:166／160）

＜今年度の主な取組＞

- ・ 瑞浪市商工会議所の全ての登録企業がインターンシップを受入れ
- ・ 瑞浪駅前商店街で販売実習を展開、生徒作品を展示、瑞浪駅前ビルに高校を宣伝する懸垂幕を掲示
- ・ 東濃西部の県立高校による合同説明会を開催

＜協議会における主な意見・提案＞

- ・ 総合学科への改編も含めた大胆な策が必要ではないか
- ・ 福祉、介護、医療の分野の学習を実施してはどうか
- ・ 地域の企業と連携した活動を推進してはどうか
- ・ 魅力を高めるためには、ソフト面に加え、校舎の改築等、ハード面の整備も必要ではないか

＜現時点での活性化の基本的方向性＞

- ◆ 東濃学区の生徒を幅広く受け入れ、その多様な学習ニーズや進路希望に一層きめ細かに対応できる高校

土岐紅陵高校（第1次選拔出願者数[変更後]／入学定員 H28:100／120 → H29:133／120）

＜今年度の主な取組＞

- ・ 総合学科の系列の特色を生かした取組（韓国高校生との交流会／中学生向け「夏休みマンガ講座」等）を実施
- ・ 土曜開催、案内チラシの配布、無料シャトルバスの用意で学校説明会の参加者増
- ・ 東濃西部の県立高校による合同説明会を開催

＜協議会における主な意見・提案＞

- ・ 中学生にとって総合学科の特色はイメージしにくいので、中学生に高校の授業を体験してもらう取組をすべき
- ・ 「陶芸」や「ハングル」の授業の成果を、地域に広く発表する機会を設けてはどうか
- ・ スクールバスの運行や路線バスの経路改善等について検討すべきである

＜現時点での活性化の基本的方向性＞

- ◆ 東濃学区の生徒を幅広く受け入れ、その多様な学習ニーズや進路希望に一層きめ細かに対応できる高校

恵那南高校（第1次選拔出願者数[変更後]／入学定員 H28：70／120 → H29：53／80）

＜今年度の主な取組＞

- ・ 恵那市、恵那川上屋、恵那南高校間で3者連携協定を締結し、恵那南高校の生徒の栗を素材にした6次産業学習（栗の生産、加工、販売）を推進
- ・ 恵那市のALTによる放課後の英会話指導を実施
- ・ 明知鉄道定期券購入の恵那南高生への半額助成（恵那市）
- ・ 東濃東部の公立高校による合同説明会を開催

＜協議会における主な意見・提案＞

- ・ 総合学科の在り方（製菓、料理、福祉のコース等）を検討してはどうか
- ・ 小・中・高一貫性のあるカリキュラムの作成に取り組んでどうか
- ・ 中高一貫教育校とすることについて検討してもよいのではないか
- ・ 大正村「浪漫亭」を高校の学習の場として積極的に活用してはどうか

＜現時点での活性化の基本的方向性＞

- ◆ 国公立大学進学希望者から就職希望者まで、地元の幅広い層の生徒を受け入れ、その多様な学習ニーズや進路希望に一層きめ細かに対応できる高校

坂下高校（第1次選拔出願者数[変更後]／入学定員 H28：94／120 → H29：54／120）

＜今年度の主な取組＞

- ・ 中津川市内の自治会、まちづくり協議会、観光協会等からなる「坂下高校活性化協議会」を設置し、坂下高校のより具体的な取組について検討
- ・ 坂下産そばを活用した健康食品等、特産品の開発に着手
- ・ 東濃東部の公立高校による合同説明会を開催

<協議会における主な意見・提案>

- ・ 地域をフィールドにした福祉や観光をテーマとする実習を充実してはどうか
- ・ デイサービスを高校で実施したり、介護者の避難所として、高校の施設設備を活用したりすることを検討してはどうか
- ・ 介護福祉士を目指す外国人留学生を坂下高校に招致できるとよいのではないか
- ・ 県外からの生徒募集についても検討してはどうか

<現時点での活性化の基本的方向性>

- ◆ 地元への就職率が高い福祉科を含め、生徒の多様な学習ニーズや進路希望に一層きめ細かに対応できる高校

高山工業高校（第1次選拔出願者数[変更後]／入学定員 H28:164／160 → H29:140／160)

<今年度の主な取組>

- ・ 工業製品の企画、設計、製造、販売を実施するサテライトキャンパスを運営
- ・ 地元企業80社からなる学校後援会が学校を支援
- ・ 東京大学や地元企業との連携により、各種ものづくり体験教室を開催

<協議会における主な意見・提案>

- ・ 高山工業高校の定員確保が地元の技術者の確保にもつながる
- ・ 「飛驒の匠」の高校としてブランド意識を高めるべき
- ・ 特許や意匠権を取得し、製品販売で利益を得る学習を導入してはどうか
- ・ 高校生の全国募集や学生寮（特に女子寮）の整備について検討すべき

<現時点での活性化の基本的方向性>

- ◆ 飛驒学区唯一の工業高校として、地域産業のニーズに応え、人材を供給し続けることのできる高校

飛騨神岡高校（第1次選拔出願者数[変更後]／入学定員 H28:77／80 → H29:82／80）

<今年度の主な取組>

- ・ 東京大学宇宙線研究所を見学、大学教授による模擬授業等を実施
- ・ 地元住民や企業とともにロボットプロレスの全国イベントを開催
- ・ 飛騨市「魅力ある地元高校づくり事業」（飛騨市内2校の活性化に関する内容）

<協議会における主な意見・提案>

- ・ 重要な教育資源である東京大学宇宙線研究所を活用し学校の特色化を図るべき
- ・ 地元の企業を高校生や保護者に紹介する取組を充実させてはどうか
- ・ 飛騨市以外にも連携中学校を拡充することで、学校の活性化を図れないか
- ・ 「市県連携型運営高校（仮称）」といった発想で運営することができないか

<現時点での活性化の基本的方向性>

- ◆ 国公立大学進学希望者から就職希望者まで、地元の幅広い層の生徒を受け入れ、その多様な学習ニーズや進路希望に一層きめ細かに対応できる高校
- ◆ 飛騨市と県の連携型高校など、吉城高校を含めた飛騨市内の高校の在り方を検討

○ これらの学校では、小規模であることの利点を生かし、少人数によるきめ細かな指導がなされている。また、その学校規模から、地域連携による教育活動が展開しやすく、地域を担う人材の育成など地域活性化への貢献が期待されている。そのため、地方創生の観点からも、当面は小規模校として学校を維持し、単独校としての活性化の一層の推進を図る。

(2) 県立高校活性化のグランドデザイン

○ 県教育委員会では、高校の特性に応じた活性化の基本的な考え方を定め、具体的な活性化策を例示したものを、「グランドデザイン」とした。

今後は、必要に応じて見直しも図りながら、原則として、このグランドデザインに沿った活性化策を検討、実施していくこととする。

<県立高校活性化のグランドデザイン>

	特 性	活性化の基本的な考え方	具体的な活性化策 (例)
普通 科 等	選抜性の 高い大学 への進学 が多い	<ul style="list-style-type: none"> ○グローバルリーダーの育成 ○個別のより高度な学習ニーズへの対応 ○新大学入試制度や新学習指導要領を見据えた探究的な学習を積極的に展開 ○キャリア教育や進路支援体制を充実 ○地域から求められる人材を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◆高等教育機関等の教育力を積極的に活用したより高度な学習機会の提供 ◆少人数による主体的・対話的で深い学びの推進 ◆進学重点型の単位制へ改編 ◆授業時間外の補習体制の充実 ◆大学卒業後の進路を見据えたキャリア教育の推進
	いわゆる 中堅 進学校	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に学習できる教育体制の構築 ○個別の進学希望へのきめ細かな対応 ○大学合格実績の向上 ○キャリア教育や進路支援体制を充実 ○地域から求められる人材を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◆進学希望別(コース別)教育課程編成、コースや系列の見直し ◆進学重点型の単位制へ改編 ◆授業時間外の補習体制の充実 ◆大学卒業後の進路を見据えたキャリア教育の推進
	進路先が 多様	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な進路希望にきめ細かく対応 ○多様な生徒(中途退学経験者、不登校経験者、特別な支援を必要とする生徒等)への対応 ○キャリア教育や進路支援体制を充実 ○地域から求められる人材を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◆進路実現型の単位制や総合学科へ改編 ◆昼間2部(午前・午後)、通信制(平日スクーリングタイプ)への改編 ◆「少人数コミュニケーション講座」の開設 ◆デュアルシステムの導入・充実
総合 学科			
専 門 学 科	学科によ って進路 状況に違 いがある	<ul style="list-style-type: none"> ○本県の地域産業を担う人材を育成 ○少子化に伴う学校の小規模化への対応 ○産業構造の変化等による新たなニーズへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域産業やニーズに応じた学科の再編成や学科名称の変更 ◆柔軟な定員設定や類型(くくり)募集 ◆学校規模にあった学科改編 ◆複数の専門学科併置校へ改編
	定時制 通信制	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な生徒、多様な学習ニーズや学習スタイルへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> ◆夜間定時制を多部制に改編(昼間部の新設) ◆全日制タイプの高校に改編

3 来年度以降の取組内容

(1) 地域連携による活力ある高校づくり

- 小規模化の進行が急な10校（グループ1）については、現時点での活性化の基本的方向性を踏まえ、協議会における意見や提案を焦点化して、具体的な取組としていくことが必要である。また、今年度からグループ1で実施している、協議会を組織した地域連携による活力ある高校づくりを、次に小規模化の進行が懸念される高校（グループ2の9校のうち6校）へ拡充する。

<地域連携による活力ある高校づくり推進事業について>

高校ごとに、学校関係者、市町関係者、地域の産業界代表者等により構成する協議会を組織し、地元の市町や企業等と一体となって、地域課題を踏まえた活力ある高校づくりを推進する。

（取組例）

- ・ 地元企業でのインターンシップなど、キャリア教育の充実
- ・ 地域活動に積極的に参画し、身近な地域課題の解決を図る学習の実施
- ・ 地域と一体となって学習活動を充実させるコミュニティスクール構想の推進

事業対象校

（グループ1）

不破、郡上北、八百津、東濃、瑞浪、土岐紅陵、恵那南、坂下、高山工業、飛騨神岡

（グループ2のうち専門高校3校を除いた6校）

山県、揖斐、池田、海津明誠、関有知、吉城

※ 専門高校3校（恵那農業、中津商業、中津川工業）は、県地方産業教育審議会（H28.10.31～）の議論を踏まえて検討

(2) 県立高校における進学指導体制の充実

- 「県立高校における進学指導の強化事業」として、近年減少傾向にある、いわゆる難関大学への県立高校からの合格者数の増加を図るため、普通科高校を中心に

に、県教育委員会が主体となり、生徒の学力向上や教師の進学指導力向上を推進する。

<県立高校における進学指導の強化事業について>

① 進学指導重点校指定事業

大学進学を主目的とした普通科がある高校から、4校程度を進学指導重点校として指定し事業化

(取組例)

- ・ 放課後や土曜日における学習支援員の配置
- ・ 大学教員や専門家の講演等、生徒の知的好奇心の発掘

② 進学指導連携事業

高校間で連携を図り、効果的な受験対策とモチベーション向上を目指す事業を推進

(取組例)

- ・ 教員向けの指導力向上講座の開催
- ・ 他校の生徒と合同で難関大学対策や受験勉強に取り組む学習合宿の実施

※ 普通科を主体とした高校の主な大学の合格状況 (H28年度入試とH20年度入試の比較)

	対象校 入学定員	国 公 立				私 立 南山大	
		東京大	京都大	名古屋大	岐阜大		
H28.3卒	7,280	2,065	28	33	158	424	1,066
H20.3卒	7,240	2,514	26	56	225	464	1,128

(3) スーパーグローバルハイスクールの拡充

- グローバル化が急速に進展するなか、グローバルな視点から地域課題を発見・解決する力を身に付け、国際舞台や地域で活躍できる人材を育成するため、県内5地区の選抜性の高い大学への進学希望者が多い高校等をスーパーグローバルハイスクールに指定し、大学や企業等と連携した質の高い教育カリキュラムを実践する。

<スーパーグローバルハイスクールの拡充事業について>

- ① グローバルな社会課題に関する先端的授業およびグローバル人材育成に資する課題研究

(取組例)

- ・ リサーチ、フィールドワーク等の手法を活用したグローバルな社会課題の研究
- ・ 大学や企業等と連携した国際経済・ビジネス等に関する課題の研究

- ② 外国語による実践的なコミュニケーション能力の育成

(取組例)

- ・ 英語でのプレゼンテーションやディスカッションの実施

- ③ グローバルな教育環境の実現

(取組例)

- ・ 海外のトップレベルの大学・高校や、日本の大学で学ぶ外国人留学生との交流

※ スーパーグローバルハイスクール指定校

岐阜商業高校【岐阜地区】 大垣北高校【西濃地区】 関高校【中濃地区】
多治見北高校【東濃地区】 斐太高校【飛騨地区】

4 来年度以降の検討課題

(1) 今後の急激な生徒減少期を見据えた学校規模（入学定員）

- 全県的な高校の活力や学力水準を維持、向上させるために、中心部と周辺部の高校の入学定員設定の考え方について検討する必要がある。
- 職業系専門学科については、普通科との入学定員割合のバランスや、地域（学区）によっては、複数の専門学科併置校や柔軟な入学定員についても検討する必要がある。
- 小規模化の進行が懸念される高校（グループ1、2）については、中学校卒業予定者数の減少を踏まえ、地域によっては、同一市郡内高校の役割を明確に

した単独校としての在り方についての検討と、定員未充足状況が続く場合の対応について整理する必要がある。

(2) 高校の特性に応じた活性化策

<普通科や総合学科について>

- 個別のより高度な学習ニーズへの対応、大学合格実績の向上、大学から就職までを含めた多様な進路希望に対応するための活性化策（進学希望別（コース別）教育課程編成や単位制の導入、総合学科への改編、総合学科における系列の見直し等）について検討していく必要がある。

<職業系専門学科について>

- 本県の地域産業を担う人材を育成するとともに、社会のニーズや産業構造の変化、航空宇宙産業やリニア関連産業等、県内の成長産業として期待される分野に対応するために必要な学科の在り方について検討する。なお、今年度から開始された県地方産業教育審議会からの答申を踏まえた検討が必要である。

<定時制、通信制について>

- 多様な学習ニーズや学習スタイルへの期待に応えるため、例えば現在の夜間定時制を昼間部に移行するなど夜間定時制の在り方について検討したり、通信制のスクーリングを平日に実施できる仕組みを検討したりするなど、柔軟な学習環境の整備や指導体制の拡充を図る必要がある。

(3) 通学区域

- 今後の急激な生徒減少期を見据えた学校規模についての検討や、今後の活性化策の進捗状況に合わせ、生徒がより多様な選択肢の中から、進路希望に応じて、より主体的に高校の選択ができるよう、通学区域の在り方についても、検討する必要がある。

(4) 国際バカロレア (IB)

- 「国際バカロレア検討委員会」⁴による議論やアンケート調査結果による県民ニーズ把握、先進校視察等を通して、県立高校へのIBコース導入の必要性について検討を重ねた。また、IB機構が主催するワークショップへの教員の参加等、IBに関する知識の深化や教員の指導力の向上にも取り組んできた。

こうした検討や、IBについての全国的動向などから、現時点では、県立高校活性化の方策として、DP (16～19歳) コースの導入を優先的に進めるのではなく、今後の状況変化を注視しながら、MYP (11～16歳) との関連性も含めて、継続して検討する必要がある。その一方で、IB教育における探究的・対話的な教科横断型の授業形態や教育手法を、これからの本県の高校教育全般にどのように活用するのかといった視点で研究を進めることは重要である。

(5) 併設型中高一貫教育校

- 他県の事例の整理や県民ニーズの変化を注視しながら、県立の併設型中高一貫教育校について継続して検討する必要がある。

(6) 外国人生徒への支援

- これまでの取組を継続・発展させるとともに、日本語指導が必要な外国人生徒などを積極的に受け入れる方策についても検討し、自立して社会生活を営むことができる力の育成のための教育課程について引き続き検討していく必要がある。

(7) 「新子どもかがやきプラン」との関係について

- 「新子どもかがやきプラン」(平成29年3月策定)において、政策の1つとして掲げられている、他者と関わるためのルールを身に付け、自分の思いを積極的に表現する力を養う「少人数コミュニケーション講座」を導入するなど、特別支援教育の視点も取り入れた、多様な生徒に応じた指導方法の構築が必要となる。

⁴ 委員会の活動概要については、資料編：27頁 参考資料4「国際バカロレア検討委員会の活動概要」参照

※ 新子どもかがやきプランより抜粋（高等学校関連）

重点政策1：県内各地域への高等特別支援学校機能の整備

- ・ 県立学校（特別支援学校、高等学校）の余裕教室等を活用して整備
- ・ 高等学校の専門的な実習室を活用したり、専門教科教員から技術指導を受けたり、スポーツや芸術に関する行事を共同で実施

重点政策2 発達障がい等のある児童生徒への支援強化

- ・ 高等学校において、他の生徒と適切に関わるためのルールを身に付けたり、自分の思いを積極的に表現する力を高めたりするため、「少人数コミュニケーション講座」を導入
- ・ 個別の支援計画、個別の指導計画を、中学校から高等学校、そして卒業後の進路先へと確実に引き継ぐシステムを構築
- ・ 障がいのある生徒が県立高校への進学を希望する場合には、受検や学校生活において必要となる合理的な配慮を、事前協議を踏まえて提供

重点政策3 学びの場を支える教員の専門性向上

- ・ 指導的立場の教員による高等学校教員の授業力を向上
- ・ 高等学校において、通級による指導やユニバーサルデザインの授業づくりの核となる発達障がい支援の指導的立場の教員を養成し、県内すべての学校に対して指導方法等の助言を行うことができる体制を整備

（8）市町村からの提案に対する対応

- 一部の市町村からは、市町村に所在する高校の活性化策についての提案等⁵をいただいているが、その内容も踏まえ、活性化策を検討する必要がある。

⁵ 資料編：41頁～65頁 参考資料7「市町村からの提案等」参照

5 今後の予定について

- 平成30年度実施予定（現中学校2年生が入学する年度）の個別の活性化策については、来年度のできるだけ早い時期に発表する予定としている。
- また、国の動向や社会・経済や産業構造の変化、今後の具体的活性化策の進捗状況、各方面からの意見等を踏まえ、必要に応じてグランドデザインの見直しも図りながら、整理できた活性化策から順次、発表していくこととする。

資料編

- ・ 参考資料 1 検討まとめの検討経過について
- ・ 参考資料 2 「審議まとめ」に関する地区別意見交換会意見概要
- ・ 参考資料 3 県立高校活性化に関する学区別意見交換会意見概要
- ・ 参考資料 4 国際バカロレア検討委員会の活動概要
- ・ 参考資料 5 県立高校の魅力づくりに関するアンケート調査結果
- ・ 参考資料 6 中学校卒業予定者数の推移（全体／学区別）
- ・ 参考資料 7 市町村からの提案等（平成29年3月現在）
各務原市／高山市／山県市／郡上市